



8月号をお届けします。執筆時点では梅雨末期の集中豪雨が各地を襲っており、九州では河川の氾濫や土砂崩れが相次ぎ、甚大な被害が出ています。お亡くなりになった方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。「数十年に一度の大雨」が連日のように報道されており、これも夏の猛暑と同様に地球温暖化の影響なのかもしれません。被災地の一日も早い復興を祈念してやみません。

5月25日に新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が全国で解除されました。その後、東京都では感染者が再度増えつつあるということで、6月2日に東京アラートが発出されましたが、6月11日にはこれも解除となりました。飲食店などの休業要請も段階的に解除され、東京都では、6月19日に居酒屋を含む飲食店の営業時間制限や接待を伴う飲食店の休業要請が全面解除されました。お店の方々も様々な感染防止対策を講じており、久しぶりで飲食を楽しむ人々の姿が報道されました。街にも徐々に活気が戻ってきていたようですが、7月に入ってから東京都の感染者数が100人・200人を超える状態が続いています。感染者は比較的若い方が多く、接待を伴う飲食店での感染者が多いのも特徴です。東京都は「夜の街への外出は控えて」と呼び掛けており、今後については不透明感が増してきています。

7月7日発表の5月の家計調査結果をみると、5月中は新型コロナウイルス緊急事態宣言下の期間が長かったこともあって、外食代は前年対比55.8%減、外部での飲酒代は88.4%減と依然として厳しい状況が続いています。一方、チューハイ・カクテルは52.6%増となっており、家飲みへの移行が維持されています。5月の家計消費支出全体も、前年同月比で16.2%減と大きく落ち込んでいました。それでも、緊急事態宣言解除後の5月25日から5月31日の期間の週別消費支出の対前年同期実質増減率という数値を見ると、マイナス1.7%まで回復してきています。最悪期は、4月27日から5月3日でマイナス26.4%減でした。旅行や外食のような連休らしい消費がほとんどなかったことが大きく影響しているものと考えられます。6月以降は、コロナによる自粛から解放されての「リベンジ消費」が期待されていますが、最近の感染状況を見ていると、楽観視はできません。油断のできない状態がしばらく続くことが考えられます。

緊急事態宣言の解除を受けて、醸造協会主催の各種セミナーについても開催を模索しておりますが、感染第2波の懸念があることから、難航しています。7月7日(火)・8日(水)には「ワインセミナー」を開催する予定でしたが、中止とさせていただきます。ご講演の準備をいただいた講師の先生方、参加申込みをなさった方々には誠に申し訳ありません。今後も対面での講義形式によるセミナーの開催は厳しい状況が続くことも考えられますので、対面によらない形式でのセミナー開催も検討していかねばなりません。醸造協会では以前からインターネットを利用したWeb講習を行ってまいりましたので、オンラインでのセミナーにも対応できるのではないかと考えております。9月16日(水)～18日(金)開催予定の「清酒・地ビール製造技術セミナー」では、オンラインでの参加を可能にするような方法を検討中です。今後のホームページ等でのお知らせをご注意ください。

日本醸造学会大会につきましては、先月号でお知らせしましたように、インターネットによるオンライン開催とすることとし、7月10日から一般公演の受付を開始いたしました。講演を申込みされた方々には、この後、発表動画の作成とファイルの送付に取り組んでいただくこととなりますが、よろしくお願いたします。9月1日からは聴講のみの参加者の受付を開始いたします。お申込みをなされますと、IDとパスワードが発行され、10月21日(水)午前10時～10月27日(火)午後3時までの期間中いつでも発表のビデオをご覧になれます。また、発表に関するコメントや質問については、画面上に書き込んでいただき、発表者が後ほど答えていただくシステムを検討しています。初めての試みで、試行錯誤しながらの開催ですが、多くの皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、日本醸造学会ホームページをご覧ください。